

## CONTENTS

はじめに	3
本書の読み方	5

## 第1章 オスマン帝国の断末魔

序幕	<b>610-1870年</b> イスラーム史概観	013
第1幕	<b>神の御加護はどこに？</b> 欧州形勢逆転	021
第2幕	<b>同志よ、団結せよ！</b> アフガーニーの足跡	029
第3幕	<b>帝国の“紐帯”を求めて</b> スルタン＝カリフ制の利用	037
第4幕	<b>帝の本心</b> 汎イスラーム主義の利用	047
第5幕	<b>憲法さえあれば！</b> 青年トルコの蠢動	055
第6幕	<b>立憲制の成立</b> 青年トルコ革命の勃発	063
第7幕	<b>狙われる帝国</b> 帝国領のさらなる縮小	071
第8幕	<b>3B政策のはざまに</b> オスマン帝国の地政学的重要性	077
第9幕	<b>亡びの道</b> 独土秘密同盟条約の締結	083

## 第2章

# アリー朝の断末魔

- |     |                             |     |
|-----|-----------------------------|-----|
| 第1幕 | 交錯する思惑<br>スエズ運河開通           | 091 |
| 第2幕 | エジプト人よ、立ち上がれ！<br>アラビー＝パシャの乱 | 105 |
| 第3幕 | “救世主”の煽動<br>マフディー教徒の乱       | 111 |

## 第3章

# カージャー朝の断末魔

- |     |                        |     |
|-----|------------------------|-----|
| 第1幕 | 革命への起爆剤<br>タバコ＝ボイコット運動 | 117 |
| 第2幕 | 誇りを取り戻せ！<br>イラン立憲革命の勃発 | 125 |
| 第3幕 | 熱狂からの戒厳令<br>第1次立憲制時代   | 131 |
| 第4幕 | 再起のあとの内ゲバ<br>第2次立憲制時代  | 139 |

## 第4章

# インドの自治運動

- |     |                              |     |
|-----|------------------------------|-----|
| 第1幕 | 御為倒しの諮問機関<br>インド国民会議 ボンベイ大会  | 145 |
| 第2幕 | 混水摸魚<br>ベンガル分割令              | 155 |
| 第3幕 | イギリスの掌の上で<br>インド国民会議 カルカッタ大会 | 163 |



第4幕	押さば引け、引かば押せ 第一次世界大戦直前のインド帝国	171
-----	--------------------------------	-----

## 第5章 オスマン帝国滅亡

第1幕	私は立つ！ オスマン帝国の依違逡巡	177
第2幕	“アラビアのロレンス”とともに フサイン＝マクマホン協定	187
第3幕	修羅地獄の原点 イギリス三枚舌外交	193
第4幕	屈辱の講和条約 セーブル条約	205
第5幕	恨み晴らすべし！ アンカラ新政府の誕生	213
第6幕	オスマン帝国の滅亡 ローザンヌ条約	221
第7幕	突き進むケマル＝パシヤ トルコ共和国の成立（トルコ革命）	227

## 第6章 エジプト・イランの再生

第1幕	欧州かぶれの操り人形 エジプト完全保護国化	241
第2幕	革命でつかんだ“ニンジン” エジプト形式独立の達成	247
第3幕	国を守るための“みかじめ料” 英ス条約	257

第4幕

## コサック旅団の英雄

パフレヴィー朝の誕生

263

## 第7章

# インドの独立運動

第1幕

### 約束された自治

モンタギュー声明

273

第2幕

### 反故にされた自治

ローラット治安維持法

283

第3幕

### “見せかけ”の自治

モンタギュー＝チェルムスフォード改革

291

## 最終章

# 恐慌後のイスラーム

第1幕

### 自主化と近代化

世界大恐慌後のトルコ・イラン

299

第2幕

### “毒入り”の同盟条約

世界大恐慌後のエジプト

307

最終幕

### 欺瞞に満ちた世界最長憲法

世界大恐慌後のインド

315

*Column* コラム

神の御加護	036
紐帯とは？	046
政治改革の難しさ	054
親日トルコ人	062
先ず勝ちて後に戦を求む	070
地政学とは？	082
オスマンの断末魔	090
地球が小さくなった！	104
裏切者の末路	186
条約と議定書の違い	204
コンコルド効果	282